
公立大学法人北九州市立大学

外国語学部 中国学科

FACULTY OF FOREIGN STUDIES

DEPARTMENT OF CHINESE

英語以外にもう一言語勉強してみたいと
考えている方や、中国語の修得に興味が
ある方は読んでみてください。

■ はじめに ■

北九州市立大学外国語学部中国学科は、1946年の大学創設以来70年に及ぶ伝統を持っており、戦後間もなく開学した本学の中でもっとも古い学科のひとつです。

これまで時代のニーズにあわせて中国語教育向上のために数々の取り組みをおこなってきました。

中国学科では、中国語を基礎から学び、実践的な中国語コミュニケーション能力を身に付け、アジア、そして世界で活躍できる人材の育成を目指しています。

ここでは、大学でのカリキュラムや留学等を通じてどのようにこの目標に近づいていくのかを、簡単に紹介したいと思います。

1. 徹底した少人数制授業で中国語トレーニング

～ゼロからのスタート～

中国学科では、1年生から中国語の学習が本格的にスタートします。

1年次には、中国語の徹底した基礎トレーニングをおこないます。中国語には日本語や英語にない発音のルールがあり、そのような発音のルールを、基礎から徹底的に鍛えていきます。

発音だけではなく、基本的な文法や単語の修得も始めます。つまり、それまでに中国語に触れる機会がなかった方を想定して初歩から中国語学習をおこなっていくのです。授業では、日本語を母語とする中国語専門の教員と中国語のネイティブスピーカー教員による個別指導を含む丁寧な指導がおこなわれますので、中国語をゼロからスタートする人はもちろん、中国語をそれまでに勉強したことがある人にも、じゅうぶん手ごたえのある内容になっています。

中国学科の学生は、初めて学ぶ中国語を大学入学後間もなくから集中的に学ぶため、粘り強い、努力家が多いです。初めて学ぶ外国語である中国語の修得を通じてそうした人間的な面も養われていきます。

2. 練習を繰り返して中国語のスキルを確実に修得、

語学力のアップをはかる

2年次以降も、語学クラスでは、より高度な文法の修得、ボキャブラリーの増強、表現力の向上、会話やリスニングなど実践のためのレッスンが引き続きおこなわれます。また、中国語の講読の授業もはじまり、文章の読解力を身につけていきます。このように4技能（聴く・話す・読む・書く）全体のスキルアップをはかっていきます。

中国学科では、授業以外に、1年次から学生が中国語に関する検定試験や資格試験のためのトレーニングをおこなえるようサポートし、いろいろな奨励制度を用意しています。

このように、授業および授業以外での練習をくりかえして、中国語力を確実に向上させていきます。

学生の感想：

～北九大・中国学科に来てよかったと思う、おすすめの点～

・発音を徹底して教えてもらえるので、きれいな発音が身につく

・トレーニングを徹底しておこなうので、中国語の基礎がしっかり身につく

3. 身に付けた語学力を活かすために

関連する知識を身につける

多くの人がみとめるところですが、語学力は、単にそれだけでは実践力とはなりえません。語学力を活かすためには、いろいろな関連する知識を身につける必要があります。

中国学科ではそのためのカリキュラムを準備しています。その中には学科独自に開講されるものも数多くあり、中国語の修得とともに関連知識を身につけて、中国語を実務のなかで使いこなし、中国語圏の世界を現場感覚で捉えられるようになります。いわば、中国語を使うための教養力も中国学科で身につけられるのです。くわしくは、本学の『大学案内』をご覧ください。

学生の感想:

～北九大・中国学科に来てよかったと思う、おすすめの点 -2～

- 
- ・中国語学概論や中国語音声学などで、中国語の言葉の仕組みを勉強できることは、中国語の上達にとっても役立つ
 - ・中国の歴史などについても学ぶことができるので、教養と知識が広がり、中国語をより深く学ぶことができる

4. 興味がある研究分野のゼミナールに参加する

～自主性・探究心を養う～

3年次からは、研究演習（ゼミナール）がはじまります。学科の教員の専門分野に基づいてゼミナールが開講されます。ゼミナールでは、自主性・積極性が重んじられるとともにそれぞれの専門性も高まります。

中国学科では、言語、文学、歴史、社会に関する各分野を専門とするゼミナールがあります。中国語をもっと深く、専門的に探求していてもよいし、それまでに培った中国語のスキルを生かして現代文学に挑戦するのもよいし、歴史や過去の文化からの教訓を学ぶために古典文学や歴史などに触れてみるのもよいでしょう。

中国語スキルを身につけると同時に、自身のこれと思える分野を見つけて、探求していきましょう。そして、4年次には大学生活の一つの成果として卒業研究をおこないます。

自分のこれ！という分野を見つけよう

自分の意志で選ぼう

中国語・文化・歴史・社会

5. 留学について

～外に出て実践力をさらに養おう～

語学をより上達させるためには、留学も大切です。

本学では、中国語圏の協定校への留学制度が英語圏への留学制度とともに用意されており、中国学科の多くの学生が毎年、このプログラムを利用して長期（1年程度*）の留学に行っています（*留学先によっては6ヶ月間のコースもあります）。この制度を利用すれば、留学先で取得した単位の一部を本学科の単位に互換して認定することができます。留学前に留学先での学修計画と本学での卒業までの履修計画を十分に練り、確実に単位を取れば、長期の留学を経験しながら、4年間で卒業することも可能となります。

また、学生自身が自分で留学先を探して留学に行くケースも増えてきています。

ほかに、本学には、夏休みや春休みにおこなわれる語学研修のプログラム（1ヶ月程度）もあり、中国学科の学生にもこのプログラムに参加する学生がいます。

詳しくは、国際教育交流センターにお問い合わせください。

学生の感想：～留学について～

・留学に行きやすい。クラスにそういう雰囲気ができる

・1か月の短期留学から1年程度の長期留学まで、中国語圏に行く
チャンスは多い

6. 英語について

～英語もスキルアップしたい！～

できます！

英語も必修科目として設定されており、そこで厳しく鍛えられます。

英語の資格試験等の勉強もすることになりますし、その他にも英語力を鍛える様カリキュラムが用意されています。

また、英語圏への留学する人も少なくなく、本学の協定校や自分で留学先を探して留学する人もいます。但し、中国語圏への留学のケースと異なり、英語圏やその他の語学留学のケースでは、その留学先が本学協定校であっても前頁にあるように1年など長期の留学を経験しながら4年間で卒業することはかなり難しくなります。それでも、第2言語として中国語を専攻した中国学科の学生の中には、英語にとどまらず、その他の言語にチャレンジしようとする人もいます。

学生の感想：～英語について～

・2年生までは英語は必修だし、資格試験の勉強もそこでできるので、

英語を勉強する機会が多い

・中国学科では、中国語と英語のどちらも勉強できるチャンスがある

7. 就職について

～卒業後の進路は？～

「インバウンド消費」という言葉が聞かれるようになって久しくなりました。それだけでなく、大学や国内で働く人々の中にも海外出身の国内定住者が増えており、将来皆さんが働く職場では「同僚の中に日本語のノン・ネイティブの仲間がいる」「今度のミーティングでは日本語だけでなく xx 語も使用したほうが意思疎通しやすい」ということも当たり前の風景になるでしょう。また SNS を通じて「つながる」ことも容易になっている昨今、日本国内にいても英語や中国語が有効なコミュニケーションツールとなる機会が大きく増えています。地方自治体をはじめとする行政分野でも、海外出身の国内居住者に対する語学面でのサポートが行われることも日常となっています。

さて、中国学科の卒業生の就職先の業種を見てみると、メーカー、商社、その他卸小売業、航空各社をはじめとする運輸・物流業、旅行代理店、外食産業、金融など、幅広い分野に広がっています。

このほか、公務員、医療福祉関係への進路を選択している卒業生もいます。

これらのことは、中国語の修得は「特殊な技能を身に着けること」ではなく、様々な業界で活用できる「一つの技能」となりつつあることを示唆しているのかもしれない。

就職活動の支援は、本学では、キャリアセンターを中心にきめ細かくおこなっています。

8. 中国語を学ぶメリット

～世界と将来を見据えて～

皆さんも知っているように、中国語は中国大陸だけで使われているわけではありません。台湾でも、シンガポール、マレーシアでは中華系の人々（華人）が人口の大きな割合を占めており、中国語の通用度も非常に高いです。また、アメリカや、カナダ、オーストラリアのような欧米系の国でもチャイナタウンが形成され、多くの中国語を話すひとたちが暮らすようになっていきます。いまや中国語圏は、中国大陸や台湾を越えて世界に大きく広がっているのです。

一方、目を国内に向けてみましょう。最近では、電車やバスの中、街なかなど、日本国内でも中国語に接する機会が増えています。観光で日本に来る人だけでなく仕事で日本に定住している中国語圏の人々も増加しています。

つまり、海外においても日本国内においても、中国語に触れ中国語を活かす場や機会は確実に増えています。世界と将来を見据えて、中国語を学ぶメリットは決して小さくないでしょう。

～中国語を学んでよかったことは？～

・中国だけでなく中国以外の外国に行ったときに中国語ネイティブと

中国語でコミュニケーションがとれた

・九州、福岡でも中国語を見聞する機会は増えている

■ 北九州市立大学交流協定校

(中国語プログラムが提供可能な大学)

北京語言大学/北京市

<http://japanese.blcu.edu.cn/> (日本語)

大連外国語大学/遼寧省大連市

<http://www.dlufl.edu.cn/jp/> (日本語)

同済大学 /上海市

<https://www.tongji.edu.cn/>

文藻外語大学 /高雄市 (台湾)

<http://www.wzu.edu.tw/front/bin/home.phtml>